

環境首都コンテスト：先進事例から

分野	市町村	タイトル	ポイント	取組内容
地球温暖化 防止・エネル ギー対策	高島市（山形県）	全国にも波及！夏 の笑エネキャンペ ーン	みんなで楽しく省エネ大作戦。施 策継続 4 年目に入り、ますます 充実。町の取組が県全体に広がり、全国的にも認知されるまでに 発展している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2003 年から住民と実行委員会を作って実施。</li> <li>・ 省エネを呼びかけるキャンペーンの実施。</li> <li>・ 呼びかけ手段として、地元ケーブルテレビ、ラジオの CM を実行委員会の家族出演によるなど、住民の多くが 関わる手作り方式。</li> </ul>
	周南市（山口県）	市民節電所	各家庭の節電実績に応じて支援 金を支給することで、節電を広める 取組。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 節電の必要性を市民に広め、その活動を支援するため、 「市民節電所」を設立。</li> <li>・ グループ単位、世帯単位で参加して節電に取組み、節 減率に応じて支援金を支給する。</li> </ul>
	長野市（長野県）	剪定枝・まきストー ブ活用事業	市民が仲介者となって果樹農 家とまきストーブ使用家庭を結 び、「まきストーブ」の燃料に農 家で不要となった剪定枝を使う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リンゴ栽培の盛んな長野市では、果樹農家から出る剪 定枝を燃料とした「まきストーブ」を推進。</li> <li>・ 市が剪定枝の提供農家と、まきストーブ利用者の両者 が登録し、枝切断、運搬を行ってまきを調達する仕組み を作り、剪定枝の処分に苦慮する農家と、まきの調達に 苦慮するストーブ利用者に双方にとってメリットがあ り、かつ、まきストーブの活用促進による地球温暖化防 止にもつながる取組。</li> </ul>
自然環境の 保全と回復	秦野市（神奈川 県）	里地里山保全再生 事業	里山や周辺農地の原風景を保 全・再生するため、農業者、住民、 都市住民、行政が協働し、既存の 活動や施策を結びつけた総合的 保全再生事業。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民、NPO、専門家と市、環境省が連携し、市内各 地域の特性に応じた保全再生のための地域戦略を作成。 既存の取組を活かしながら関わる「人」を結びつけ、「活 動場所」を増やすための体制を整備。</li> <li>・ ボランティア制度、フィールドリーダーの研修制度な ど活動フィールド登録制度などの仕組みを作り、荒廃農 地の解消と活用、生ゴミの堆肥化と活用、水源保全など 森林地帯を抱える地域らしい新しいまちづくり活動の スタイルができつつある。</li> </ul>
まちづくり と一体化し た交通政策	飯田市（長野県）	地域と連携して取 り組むノーマイカ ーデー	交通需要抑制ビジョンを作成。新 エネ・省エネ地域計画と併せ、自 動車利用抑制による CO2 削減数 値目標を掲げ、地域連携で成果を 上げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車利用抑制によって 2010 年までに CO2 を 1990 年比 6、121 t 削減する目標を掲げる。</li> <li>・ 市と市内 8 事業者とでノーマイカー方策推進研究会を 組織し、検討を重ねて取り組む。</li> <li>・ ノーマイカー及び通勤時以外のエコドライブに取組 み、実績を上げている。</li> </ul>

